

令和8年2月24日選出

副議長に成毛伸吉議員

なるけのぶよし

合併20年目の節目を新たな出発点と捉え、誇りを持って次の世代に引き継ぐことができるまちづくりに着実に取り組む決意であります。市民の皆さまには、今後とも市議会に対するより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、就任のごあいさついたします。



議長に内山勝己議員

うちやまかつみ

就任のごあいさつ

市民の皆さまには、平素より市政および市議会に対して格別のご理解とご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

このたび、3月定例会において、議員各位のご推挙により第19代議長ならびに第19代副議長に就任いたしました。市議会を代表する立場として、身の引き締まる思いでこの職責を果たしてまいれる所存です。

さて、本年は、香取市が新市合併から20年という大きな節目の年に当たります。これまで、それぞれの地域が育んできた歴史や文化、豊かな自然と伝統を大切にしながら、互いの理解と協力のもと一体感のあるまちづくりが進められてまいりました。この歩みは、市民の皆さまをはじめ、多くの関係者のご尽力の賜物であり、深く敬意と感謝を申し上げます。

市議会においても、行財政改革の一環として議員定数を20人に削減し、より効率的で責任ある議会体制の構築に努めてまいります。限られた人数だからこそ、一人ひとりがその責務を強く自覚し、市民の声に真摯に向き合い、充実した論議を重ねていくことが重要と考えます。

一方で、少子高齢化や人口減少、長期化する物価高騰の影響など、本市を取り巻く環境は徐々に厳しさを増しております。こうした課題に的確に対応するため、市議会としての監視機能と政策提言機能を十分発揮し、持続可能なまちづくりの実現に力を尽くしてまいります。

合併20年目の節目を新たな出発点と捉え、誇りを持って次の世代に引き継ぐことができるまちづくりに着実に取り組む決意であります。市民の皆さまには、今後とも市議会に対するより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、就任のごあいさついたします。



伊能敏雄 議員



二次元コードからスマホで質問の内容や録画が見られます。

利根川北岸地域に視点を置いた環境問題を問う

Q. 合併浄化槽普及の補助金制度の趣旨と実績は。

A. この補助金は、生活排水による公共用水域の水質汚濁防止、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を目的としており、補助対象は、既設の単独処理浄化槽や汲み取り便槽からの転換や、住宅の新築や建て替え時に新設するものです。令和6年度末までの5年間の交付実績は、転換127件、新設211件です。

Q. 新左衛門川などの悪臭、酸欠解消を図る通水は無理か。

A. 新左衛門川への取水は香北土地改良区が水利権を所有し、3月20日から8月31日まで取水を行っています。水利権のない9月以降の取水については、関係機関と協議をしましたが、実現には至りませんでした。

Q. 利根川以北の環境改善のための効果的対策は。

A. 対策として合併処理浄化槽の設置促進が効果的であることから、補助制度の啓発に努めていきます。

Q. 転換を普及するため、活用しやすく補助制度の見直しを検討してほしい。

A. 実情を所管部門と研究し、解決策を検討してまいります。工事手法の可能な範囲での簡素化など法的に導入、検討できることを研究していきたいと思っております。

意見 水の近い地域、浄化槽敷設の掘削で水が湧く。水抜き装置を設置しないと現検査での対応はできない。これで補助金の大半が飛んでしまう。工事に伴う検査の簡略化を進めなければ転換への積極的対応は進まない。

「1か月毎週開催「ふるさと祭り」このままで良いか

Q. 4地区の特色や効果と問題点。

A. 山田ふれあいまつりの地元団体によるステージイベント、おみがわYOSAKOI

ふるさとまつりのよさこい団体による演舞の披露、栗源のふるさとこいも祭の日本一の焼きいも広場、ふるさとフェスタさわらのご当地ブルメなどのイベントで、地域の特産品や文化資源の魅力を広く発信することにも、地域コミュニティの活性化にも繋がっていると考えます。4地区の運営委員会から、ふるさと祭り継続の課題について、人手不足による運営体制の維持や来場者数の減少などの意見がありました。

Q. 開催方法の今後の方向性はどうか。

A. 香取のふるさとまつり作業部会では、実施方法の見直しが必要としつつも、地域のつながりや特色を尊重し、4地区のふるさと祭りを継続したいという強い意向が示され、令和8年度の香取のふるさとまつりは、各地区で実施する方針を決定しました。

意見 山田、栗源地区は、本来の趣旨と目的を感じる。小見川、佐原地区は基本的流れが縮小していると感じる。情性的取り組みは許されない。職員負担も大きい。

Q. 投票日の投票時間繰り上げを検討しないか。

A. 選挙管理委員会では、投票機会の確保を最優先に考えてきましたが、投票終了時刻の繰り上げを行う自治体が増えているため先行事例を参考に研究してまいります。

意見 繰り上げにより職員や関係者の負担軽減と経費削減にも繋がる。